

中学校第2学年 特別の教科 道徳

3班

友達からのコメント

何でそう思った?

そうだね

体のことを考えるに共感

自分の考え

いつもありがとう!!!!

感謝で仕方ない。これからはおばあちゃん体の事を考えていこう!!!!おばあちゃんに苦勞をさせない。

友達からのコメント

僕が支えるというのに共感した。

これからもよろしくっていう意見はなかった。

ささえる意見はなかった

自分の考え

きつくあったっちゃってごめん、これからは僕が支えられるようにする。これからもよろしく

友達からのコメント

確かに〜!共感しかない、ずっとずっと生きてほしいってそんな時思ってると思う!!

ひどいこと言っちゃったことに反省、に共感。

自分の考え

ひどいこと言っちゃったことに反省した。少しでも長く生きてもらいたい。80歳まで〜5年10年は生きてほしい。

友達からのコメント

少ない時間を大切にしていこう!!思い出いっぱい作りたいと思ってそ。

いっしょにすごすだけ?

自分の考え

残り少ない寿命を一緒に過ごそうとおもった

どんな思いで、祖母と並んで草取りをしたのか?

友達からの自分の意見に対するコメントを参考にしながら、自分の考えを更に深める。

中学校第2学年 特別の教科 道徳「内容項目C 家族愛、家庭生活の充実」

■主題名

家族の一員として

■ねらい

祖母の苦悩や不安、家族への深い愛情に気付く「僕」を通して、家族を敬愛し、家族の在り方について考え、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。

■教材の概要 「一冊のノート」(出典:「私たちの道徳」 文部科学省)

「僕」は、物忘れが激しくなった祖母に腹立たしさなどを感じている。ある日「僕」は、一冊の祖母のノートを見つける。ノートには、祖母の、物忘れに対するもどかしさや不安等が書かれていて、「僕」は祖母の苦悩や家族への深い愛情に気付く。庭で草取りをしている祖母の姿を見つけた「僕」は黙って祖母と並んで草取りを始める。

■学習指導計画

導入

「「家族の在り方」について考えよう」

- ・「家庭でのコミュニケーション」に関するアンケート結果を踏まえ、これまでの家族との関わりについて振り返る。
- ・認知症の高齢者の生活のようすを知る。

展開

- ・教材の範読
- ・「僕」の祖母に対する苛立ち、ひどい態度(弱さ、醜さ)を確認する。
- ・「一冊のノート」が、「僕」の心の変化を生むきっかけとなったことを押さえる。

中心的な発問「「僕」は、どんな思いで祖母と並んで草取りしたのだろうか。」

- ・シナリオを構想する
- ・分担してスライドを制作する
- ・伝えたいテーマを再検討する

終末

「「家族の在り方」について考えたことを発表する。」

■指導上の留意点

「家庭でのコミュニケーション」に関するアンケートは事前にICTを活用して実施し、結果もICTを用いて共有する。アンケート項目は、①家の人と普段、夕食を一緒に食べていますか、②家の人と学校での出来事について話をしますか、③家の手伝いをしていますか、④あなたにとって、家族とはどのような存在ですか、の4つ。家庭の事情に配慮し、アンケート提示を行う。

範読後すぐに教材の印象に残った場面や感想をペアで交流する。生徒の印象に残った場面を取り上げる中で、教材のあらすじを整理し、生徒からの意見をもとに次の発問につなげ、主体的に学習に取り組むようにする。

祖母の苦悩や不安、家族に対する深い愛情に気付かせ、祖母の支えのおかげで「僕」が成長できたことを理解させる。中心的な発問については、個人→小集団→全体の順で共有する中で、互いの意見に対し相互にコメントし合いながら、考えを深めていく。

「僕」と祖母の両方の視点から、心の動きを押さえ、祖母にとっても「僕」の存在が安心や生きがいを与えていることにも気付かせる。家族の中で立場と役割を考えることで、家族の一員としての自覚が高まり、互いに「寄り添い、支え合う」ことが充実した家庭生活につながることに気付かせる。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿

【学習活動の場面】

教材の中で、一冊の祖母のノートを読んで「僕」がいたたまれなくなった場面が印象に残ったという生徒が多かった。そこで教師は「一冊のノートを見たとき、「僕」はどんなことを考えたのだろう」と問いかけた上で、家族の在り方について考えを深めるため、「僕」は、どんな思いで祖母と並んで草取りしたのだろうか？各自の考えをクラウド上のシートに書き込むとともに、同じ班の友達の意見を見て、コメントを色分けしてみましょ。他の班の人の意見も見て考えましょ。」と投げかけた。

【子供の「深い学び」の姿】

Aさんは、最初「これからは、自分でできることはするし、今までおばちゃんを守ってくれていたからこれからは自分がおばちゃんを支えようと思ったと思う」と入力した。その後、他の生徒たちからのコメントを見たり、クラス全体で話し合い活動をしったりする中で、次のような他の生徒の意見に触れた。

○クラウド上のシートに書き込まれたBさんの考え

「次は自分がおばあちゃんを支えたいというところに共感した」

○話し合いで発表したCさんの考え

「自分たちの苦手な部分を理解しあってお互いで克服し合うのが向き合うということなんじゃないかな」

○話し合いで発表したDさんの考え

「わかっているんだけど、でも…ということがこれまでであったと思う。一冊のノートを見て、自分の考えを変えなきゃ駄目だと思って、言葉はなくても草取りしてやれることはやっていくという感じ」

こうした意見に触れて、Aさんは「今、思春期で親や家族とぶつかってしまうこともあるけど、一緒に些細なことで笑ったり、学校のことを話したりして、心の拠りにお互いがなれるようにしたいと思った。」



【当該指導での「深い学び」】

どんな思いで祖母と並んで草取りをしたのか考える活動の中で、自分とは異なる意見に触れることで、Aさんは、自分を支えてくれる家族の言動やしつけに反抗的になりがちな自分を自覚し、ねらいにある家族の在り方について考えを深め、充実した家庭生活を築こうとする態度を養った。家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを理解し、家族の在り方について考えを深めることができたと考えられる。

■指導上の工夫とICTの利活用

①全体で意見交換する対象を一つに絞り込む。

* 共通の課題をみんなで検討していくことにより、同一の対象する多様で大量の情報を集めることができる。

②互いの考えや友達からのコメントをクラウドで参照し合い、多様な意見や考え方に触れる活動を位置づける。

* 端末を使って情報を共有するだけでなく、友達の考えに対して、共感や関心をもって比較分析する視点でコメントを付ける活動を通して、多様な考え方に合うとともに、自らが考えを深めていくことが可能になる。
* 友達の考えに対するコメントは、「共感」は赤、「疑問」は緑、「自分とは異なる考え方（意見）」は青、「興味・関心あり」はオレンジで入力する。この指示により、子供たちは、共通点や比較の視点を意識してコメントすることが可能になる。

【活用したソフトや機能】
Microsoft PowerPoint

学習指導要領や解説との関連

中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2の(4)

(4) 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実すること。その際、様々な価値観について多面的・多角的な視点から振り返って考える機会を設けるとともに、生徒が多様な見方や考え方に接しながら、更に新しい見方や考え方を生み出していくことができるよう留意すること。